

視察研修報告書

【委員会名】 総務産業常任委員会

1. 日程

令和7月2月6日(木) 午後2時~4時

2. 視察先及び視察事項

鳥取県岩美町

研修会場 岩美町役場議員協議会室



岩美町役場庁舎内の複数箇所に歓迎の張り紙が!

3. 参加者 8名

委員長 表具 弘 副委員長 羽根 祥起

委員 松岡 宏行(議長) 浦中 隆男 溝北 好一 中谷 雅美

町当局事務局 齋藤 弘一(企画公室長補佐)

事務局 女良畑 政幸(議会事務局参事兼事務局長)

4. 視察対応者

《岩美町長》 長戸 清

《岩美町議会》 議長 橋本 恒

副議長 澤 治樹

総務教育常任委員会委員長 田中 伸吾

《事務局》 事務局長 中島 伸二

事務局長補佐 中原 由子

《岩美町役場》 企画財政課長 大西 正彦

企画財政課係長 山本 裕司



歓迎の挨拶をする長戸町長と橋本議長



挨拶する表具委員長

5. 視察先の概要

鳥取県の最東端に位置する、日本海に面した海と山と温泉の町。一年を通して

美味しい魚に出会える観光と水産の町です。人口 10,769 人(令和7年1月1日)
面積 122.38 平方キロメートル。

《空家対策の取り組みについて》

- ・移住者への助成制度では、空き家活用情報システムを利用し、一定の要件を満たす移住者が住宅を改修する場合、その費用の2分の1を助成している。(上限県外から200万円、県内100万円)
- ・移住先自治会への助成制度では、移住者が地域に溶け込めるよう、移住先の自治会がフォローする活動に対する交付金を出している。(自治会に対して1件5万円)
- ・空き家所有者への助成制度では、岩美町内の空家にかかる固定資産税相当額の2分の1を交付。空家への入居した場合、空き家所有者への当該物件の家財道具等の整理費を助成。(上限40万円)

6. 視察の内容

- ① 移住定住対策の具体的な取り組み内容
- ② 取り組みにあたっての課題と成果
- ③ 今後の取り組みについて 説明を受けた。



岩美町企画財政課の職員から空家対策の説明を受ける

《主な質問事項》

1. 岩美町空き家活用奨励金・岩美町空き家活用情報システム(空き家バンク)の制度活用実績が35件(R2~R5累計)と記載がありましたが、制度に関してどのような周知を行っているのか。
(回答)ケーブルテレビや広報誌、ホームページによる周知に加えて、固定資産税及び住民税(家屋敷課税)の納付書に制度周知のチラシを封入。
2. 制度の活用実績が35件と、本町と比較して高いと感じています。実際に「空き家」が岩美町内にどの程度あるのか。(空き家調査は自治会・区・町内会・集落からの情報が基になっていると記載があったので)
(回答) 令和6年度空き家調査実施状況(令和6年11月末時点)
調査件数 607 件、利活用件数 10 件、滅失件数 32 件、現在の空き家

件数 565 件(9 地区ごとに集計)

3. 「空き家調査」を自治会組織が協働で行っているとありますが、どのような調査を行っているのか。(調査票のフォーマット等があればお願いしたい)
(回答) 空き家調査の流れ ①年度当初に各集落・自治会に確認用地図を送付。②各集落・自治会から地図が提出される。③地図を基にして現地調査。総合判定(居住の可能性)を行い、5種類に分類。④居住できそうな空き家(1.可能、2.一部修繕すれば可能)の所有者に対し、空き家バンクの登録案内文書を送付。※全数調査を5年に一度実施。それ以外の年は新規空き家を調査。
4. 「岩美町空き家活用による定住支援活動交付金」は非常にユニークな制度と思うが、この制度のきっかけは何だったのか。
(回答) 移住者が地域に円滑に溶け込めるよう、自治会組織が率先して支援やアドバイスを行う等の活動を応援するために制定。
5. この制度導入後、自治会組織からどのような声があったのか。
(回答) 概ね好評。自治会組織によっては、移住者の歓迎会を開催したところもあった。
6. 岩美町 UIJ ターン者住宅改修支援補助金交付要綱は「県外移住者 200 万円・県内移住者 100 万円」とあります。移住者が岩美町を移住先としている主な理由は。
(回答) 移住者に対し、岩美町を移住先として選んだ理由の調査は行っていない。令和5年度転入者を対象としたアンケート結果については、一番多かったのが、「実家がある(29.2%)」。二番目は「自然が豊か(14.6%)」だった。
7. 「第3期岩美町地域創生総合戦略:重要業績評価指標(KPI)」で県外からの転入者で、岩美町に住所を有したことがある人が41人、初めて岩美町に移住する人が102人とありました(令和5年度)。令和 5 年度の鳥取県移住者数は 2361 人、I ターン者の人数・割合が過去最多とあり、移住

関心の高さがうかがえる。最近、移住定住に関して、何か感じることはあれば。

(回答) 岩美町の全国的な知名度は高くないと思っている。多くの方に魅力を知ってもらえるよう、より一層の情報発信が大切。

8. 岩美町空き家財道具等整理補助金交付要綱、本町も同様の補助金【空き家片付け事業:限度額8万円】があるが、岩美町は上限40万円と単純比較すると手厚い。この補助金制度の利用実績は。

(回答) 利用実績(R2年6件、R3年2件、R4年3件、R5年7件、R6年見込み6件)

9. 空き家問題を、今後、改善していく予定はあるのか。

(回答) 他自治体での先進地事例等も参考にしながら改善に向けて取り組みたい。

10. 他市町村の「空き家対策」で参考になった事例・制度があれば。

(回答) 具体的に参考としている特定の事例はないが、近隣市町村の動向については注視している。



岩美町役場職員に質問する総務産業常任委員

7. 考察(各委員の所感等)

【表具委員長】

○研修を受けての所感

事前質問事項の回答に加えて「移住定住対策」についても資料を用いて説明があった。質疑応答に関して、かつらぎ町側の委員からも積極的な質疑や提案もあり、今回の研修は非常に有意義なものであった。今回の視察で得た情報を各委員が本町の「空き家対策・移住定住対策」をより良いものにすべく提案出来ると思う。

○本町に照らした所見

岩美町の施策「空き家活用による定住活動交付金」は、空き家バンクを活用して入居した者が自治会・町内会に加入した場合に当該組織に5万円を交付するものである。これは町内会に加入する転入世帯が減少している中、受け入れ側である自治会組織等にもメリットがある。一方転入者にとってのメリットは「空き家活用奨励金」の固定資産税1/2相当額交付である。「空き家バンク」の登録を促すために、これら岩美町が実施している施策も前向きに検討すべきと思う。おためし住宅も本町のおためし住宅と比べると違いがある。本町の場合は所謂「古民家」であるが岩美町の場合は仮設住宅を活用した「3LDK」。また移住者だけ優遇するのではなく、Uターン者に対する支援制度も創設と充実。町外へ出た若者に対する取り組みを素晴らしく、参考にすべき点は多くある。岩美町自身が企業誘致は困難と理解しており、「ベッドタウンでもよい」と明確に言われた。本町も現実を直視し、夢を大きく語るのではなく実現可能なことをデータに基づき進めるべきである。

【羽根副委員長】

○研修を受けての所感

岩美町は、空き家対策として移住定住対策として平成 15 年から空き家バンクを実施しており、近年の入居件数は年間 10 件前後で条件としては、自治会・町内会の加入をお願いしてるようです。補助金等もかなり支援されて充実されてる、特に気になったのは、おためし住宅、7 日～1 ヶ月間の移住の体験を試みていただいている、立地条件も利便性の良い場所にありますが、それと、外部団体に委託せずに職員 2 名会計年度には 2 名で 4 名体制で仕事をこなしています。当町のように外部委託していません。

○本町に照らした所見

当町於いても、外部団体に対して委託しないで職員の仕事量は増えると思います

が、出来るだけ職員お願いするとともに自らの足で空き家状態など目視すれば、いい経験になるのではないかと思います。参考にですが、鳥取県は空き家対策に対してかなり力をいれています。

【浦中委員】

○研修を受けての所感

岩美町の空き家バンクの取り組みは、平成15年から始まり、令和7年2月現在の空き家の公開戸数は22件。近年の入居戸数は年間10件程度となっている。空き家バンクを利用して、移住する場合には、自治会や町内会への加入を条件としてところに特徴があり、入居したものが自治会・町内会に加入すれば、その組織に5万円が補助される。補助金は、入居者と地域住民とのコミュニケーションを図るなどに使われている。また、空き家所有者に、家財道具等整理補助として最大40万円を補助している。家財道具の補助を充実すれば、空き家バンクの登録が増加するとの説明があった。

空き家の調査には、毎年度当初に自治区町内会に、新たに空き家になった家の調査を依頼している。前年の空き家等の状況を描いた住宅地図を送って、それに新しい空き家を書き込むことに特徴がある。空き家の件数だけの調査であれば、どの家が空き家なのか分かりにくいのが、住宅地図であれば、だれが見てもすぐ理解できる。

若年層における地域活動促進では、町内の各小中学校に100万円を助成し、郷土愛を育む特色ある取り組みを行っている。ふるさと回帰の機会創出では、若者世代 U ターン奨励金を令和3年度からの開始し、U ターンした世帯には20万円を、県外の学校(大学等)を卒業(中退)した者には10万円を交付している。実績として令和4年度は31件、令和5年度は21件となっている。利用件数は少なくないと感じた。奨励金を受けた、ほとんどは転入してきたときに制度を知った人が多いと説明があった。しかし、こんなラッキーな話はすぐに伝わって、周知されるのではないかと感じた。また「岩見がんばれ若者小包」の発送では、ふるさと回帰の促進のため、県外に出ている学生等からの申請に基づき、特産品を送付している。100件以上の申請があるとの説明があった。空き家対策をはじめ、人口減少に歯止めをかける取り組みは、本町でも大いに参考になる取り組みであると感じた。

○本町に照らした所見

空き家対策の取り組みでは、県と町からの各種補助の充実が、空き家の活用につながると思うので充実を必要とする。その中でも家財道具の整理に対する補助を増

額すれば、空き家バンクへの登録が増加するものと思う。

本町も自治区長などに空き家の調査を依頼しているが、住宅地図の利用はできていないと思うので、実施していないのであれば、是非地図の活用を図ってほしい。

人口減少に歯止めをかける政策では、U ターンを進めることで成果が出るのではないかと感じた。故郷を忘れさせないためにも、特産品を贈ることは効果があるし、町内での就職案内や、地域の話題なども併せて送付できることなど、実施してみることも必要であると感じた。

郷土愛を育む教育の取り組みに対する補助金や、空き家バンクを利用して入居した地域の自治会・町内会への補助など、自由に使える補助金の活用が、必要になってきているのではと感じる。

【溝北委員】

○研修を受けての所感

町民 10,000 人強の農業主体の町。長戸町長が我々を出迎えて頂いて町の状況を説明頂けた。空き家対策が決して重点ではなく政策の一環で有った。鳥取県の平井知事の重点政策の思いが大きく発揮、県下の各市町の重点となっていると感じた。岩美町は、無料の 9 号線の高速道路が完成したため、土地の安い岩美町が移住の対象にもなり鳥取市の経済の重要な人材の住む町となってきた。その結果、移住者が増すとともに空き家に対しても大きく需要が活発化されてきた。我が町と空き家政策が特別違うわけではないが、自治会への補助は素晴らしい発想で在り、空き家入居の移住者は、町内会への入会が当然と、又地域の方々との交流がより活発になる。又土地代が安価な地域であるが 3 年間の固定資産半額補助も素晴らしい発想であり、この町の住民に対する思いが伝わってくる町政と感じた。

○本町に照らした所見

我が町より少し小さくて、農業・漁業そして商工業鳥取市へ通勤する方々の衛星都市と感じ、更に人口が増加する傾向のある町と感じた。空き家の個数も我が町の一回り小さい中、地域の自治区との連携強化、自治区の方々をお願いし共同認識による空き家推進が、我が町の後一押しの連携が必要であり、町内会への空き家推進の補助金もその中の一つ と感じる。

空き家の実態は HP の案内だけでなく VR をも今後は検討要。更にどの町も課題であるがもっと多くの方々の登録を加速する事が必要で在り、現状の登録件数では政策にも弱さがあると感じた。更に空き家に要望のあるの方々に対して、案内だけでな

くフォローもしっかりする事が、課題も見え更に成果に連動すると感じた。

【中谷委員】

○研修を受けての所感

岩美町は下記の空き家活用情報システムで

システム利用者 物件登録者 35 軒(R2年~5年度累計)

(1) 住宅改修の2分の1を助成(上限100万~200万円) ※本町は100万円

(2) 固定資産税相当額の2分の1を助成 ※本町はなし

入居決定後

(3) 家財道具整理費を助成(上限40万円) ※本町は5分の1の8万円

(4) 移住先自治体へフォロー活動に対し5万円交付 ※本町はなし

その他の条件

「空き家」への入居後は、移住地域の自治組織(自治会、町内会など)へ加入が必須
条件 ※本町は今後の課題

結果 移住者の状況

令和5年度の県外からの移住者数

- ・岩美町に住所を有していた者 41 人の実績がある
- ・初めて岩美町へ移住 102 人の実績がある

○本町に照らした所見

本町は空き家バンクとして特定非営利活動法人空き家コンシェルジュに委託しておこなっているが、岩美町は上記空き家活用情報システムで、町独自で取り組み結果が出ていることから①~④等の助成の引き上げ、その他の条件を整備の上、「空き家バンクとして」取り込めることがあるのではないか。

例えば、岩美町でおためしライフおためし住宅(3LDK)の建設も考えてみる。



研修を終えて、議会で集合写真

